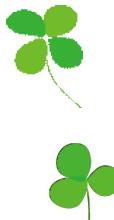


ミツバチを守って多様な自然を守りたい

ミツバチは花がなくては生きていけません。ミツバチが花の花粉と蜜をあちこちに運ぶことで多様な花が咲き、蜂蜜の生産にもつながります。その蜂蜜は「百花蜜」と呼ばれています。

ミツバチがいなくなったら75%の植物がなくなるといわれているそうです。人間も生きてはいけないかもしれません。日本ミツバチによる養蜂は、自然環境を守ることにつながっています。

資料提供 ハニーBee 新井



採蜜の様子



巣箱を見守る
ハニーBee のメンバー

ずっとハニーBeeで 働いていたい···

何年間も話し合った末にたどり着いた事業



私たちは、生協の組合員へ食材を届ける仕事を受託しています。食材と共に情報をミツバチのように届けよう、ということで事業体名をハニーBeeとしました。

現在、ハニーBeeでは、20代から70代、21人のメンバーが働いています。年齢も性別も働き方も週1日4時間から週5日フルタイム勤務と一人ひとり違います。働く理由も様々です。

第2の働く場、三芳町でできること

年齢を重ねて受託業務を行うことが難しくなった時に、生涯ハニーBeeで働き続けられる環境にしたい、と何年間も話し合ってきました。

事業所がある三芳町でできることを事業にしようと考え、3年前から日本ミツバチの養蜂を始めました。

三芳町は循環型農法が300年以上前から続けら

れています。そのため多くの平地林があります。その中の雑木林を無償でお借りし、養蜂を行っています。地主の方が高齢になり、雑木林の手入れが行き届かなくなっていました。荒れて、歩くことも難しい雑木林をメンバーと共に草を刈り、落ちている枝をまとめ、不要な木を切りました。端から端まで見渡せるようになった時、自分一人ではできないこともメンバー全員で力を合わせれば半日でここまでできるんだ、と感動しました。

もつと、もっと増やしたい巣箱

その平地林で養蜂を行い、植樹をし、落ち葉を掃き、その落ち葉を近くの農家の方々が堆肥に利用しています。ミツバチたちは農作物の受粉をお手伝いしています。

現在、巣箱は4基あり約40,000匹のミツバチがいます。事業として成り立つためには、巣箱が置ける場所を探し増やしていくかなければなりません。

現在は百花蜜（はちみつ）と石けんを販売していますが、パンやクッキーなども販売できればと思っています。また、はちみつを採集する採蜜体験イベントなども企画していきたいと考えています。



ハニーBee 江澤